

ブルダ地域 (ゴリシュカ・ブルダ : *Goriška Brda*)

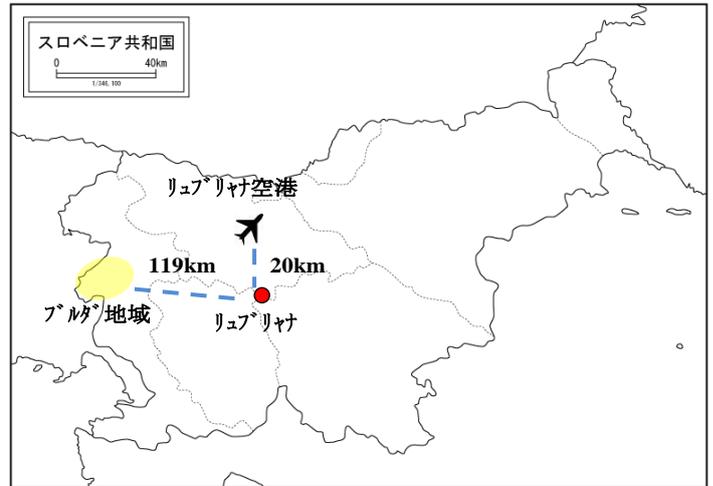
平成28年5月
在スロベニア日本国大使館

～ゴリシュカ・ブルダの見所～

- 「ブルダ」とは、イタリア語の「コロオ(丘)」の意
丘が連なる小さなトスカーナ地方の趣き
- スロベニア国内でも有数のワインの生産地
例えば、ブルダ地方独自の「オレンジワイン」
- 今も当時の面影を残す、中世の要塞都市「シュマルトノ(Šmartno)」



©2015-16 Sloveniaforyou



1. 基本情報

(1) アクセス

- 首都リュブリャナから119km:車で約1時間30分
- リュブリャナ(ヨジェ・プチニク)空港から140km:車で約1時間40分

(2) 統計(ブルダ市)

- ・人口:5,659名(2015年12月現在)
- ・主要産業:農業(果樹栽培)、ワイン製造
- ・平均総月収:1,433ユーロ
(約18.6万円、2014年)
(全国平均:1,540ユーロ)
- ・失業率:9.5%(全国平均は13.1%)

2. 概要

(1) 地勢

- スロベニア西部、イタリア北東部の国境線とユリアン・アルプスから流れるソチャ川の間位置する。地名にある「Brda(ブルダ)」はイタリア語のコリオ(Colio)であり、「丘」の意味。その地名が表すように、ゴリシュカ・ブルダ地域は、東のサボティン(Sabotin)の丘、北のコラダ(Korada)の丘に囲まれた丘陵地帯である。
- この地域一帯は穏やかな海洋性気候で、アドリア海から流れ込む暖かい空気とユリアン・アルプスから吹く冷たい風が混ざり合うことで農業に最適な環境が整い、古くから果樹栽培(ぶどう、さくらんぼ、桃、オリーブ等)が盛んである。

(2) 歴史

●ゴリシュカ・ブルダ一帯は中世より、その立地から所有権を巡ってハプスブルグ家とベネチアとの間で争いが繰り広げられていた(一例として、ベネチア戦争:1508~1521年、1615~1617年)。この戦争はハプスブルグ家が勝利を収め、それと同時にゴリシュカ・ブルダがオーストリアとベネチアの国境警備の要の地となった。丘の上にある村シュマルトノに城壁と塔を築き、周囲を堀で囲み、そこを中心としてシュテベリアン、コイスコ、ヴィポルジェといった近隣の村々も城壁を設け、この地域一帯の防衛の拠点として発展していった。

●シュマルトノを中心としたゴリシュカ・ブルダの要塞は、16世紀のトルコによる侵略の際にも地域防衛の重要な役割を果たした。そしてこの防衛体制は、外敵の侵略の危機がなくなる18世紀中頃まで続いた。

(3) 産業

●ゴリシュカ・ブルダは、スロベニア南東部、スロベニア東部に並んで、スロベニアの中でも有数のワインの生産地として知られている。この地域のワインの生産量は、スロベニアワインの生産量の約40%にあたる。主に白ワインの生産であるが、デザートワインも著名。

●また、イタリア国境付近のメダナ(Medana)は、内外のモダンアーティストに活躍の場を提供しており、日本人アーティストも参加している。

(4) その他

スロベニアはオーストリア・ハンガリー帝国の所領であったが、ゴリシュカ・ブルダ一帯は第一次大戦後にイタリア領となり、第二次大戦後ユーゴスラビアに復帰した。こうした歴史的背景により、イタリア語、フリウーリ語(イタリア北東部地

方の方言)、スロベニア語、ドイツ語の4か国語が併用されていたが、現在は主にスロベニア語、国境近くではイタリア語も使用される。

3. 参考情報

①ドブロボ城(Dobrovo Castle)

当時の外観を残す17世紀初頭のルネッサンス様式の城。四方に塔を置いた正方形の形をしており、城壁は第二次ベネチア戦争(1615~1617年)頃に建造されたと言われている。ベネチア戦争後4つの塔のうち1つが礼拝堂に改築され、現在の塔内には周辺地域から集められたゴシックのフレスコ画が展示されている。また城内にはレストランやワインセラーも併設されており、地元の名産品を楽しむ。



②シュマルトノ(Šmartno)

●16~18世紀後半、ブルダ地域の国境の軍事要塞の要となっていた村。当時、国境警備を担っていた兵士の大多数は、ウスコ(Uskok:クロアチア方面)の出身で、彼らによって守られたシュマルトノは一度も侵略者に破られなかったと言われている。

●小高い丘の上に立つ要塞は7本の柱と壁に囲まれ、その壁には兵士が警備をするにあたり十分なスペースを設けた通路が作られていた。そして、入り口に跳ね橋、周囲に深い堀を設けることで要塞を更に強固なものにしていた。

●村内にはブルダ地方で最も大きなバロック様式の教会である「聖マーティン教会」がある。この教会の鐘楼はかつて物見櫓として使用されていた。現在残る鐘は、1857年に作られたとされている。

●今日は修復がなされているが、当時の様子を残すスロベニアで最も美しい文化財の1つと言われている。



©Nina Travels

③展望台 (View tower in Gonjače)

高さ23m、144段の階段からなる展望台。ブルダ地域の中心に位置し、晴天の日にはユリアンアルプスをはじめ、北にドロミテ地方(イタリア)、西にフリウリアン平野(イタリア)、南にトリエステ湾とカルスト地域、東にトルノヴォの森とヴィンバ渓谷を眺むことが出来る。



④ヴィラ・ヴィポルジェ (Vila Vipolže)

●中世の間、長らくゴリツァ地方の領主や周辺の貴族の夏の離宮として使用されていた邸宅。17世紀初頭、両サイドに塔を構えた長方形のルネッサンス様式の屋敷に改築された。

●第一次及び第二次大戦の戦火は免れたが、1948年の火災で焼失し、現在の外観は火災後に再建され、最近EU基金を活用して多目的ホー

ルとして使用が開始され、今日、結婚式場や会議など各種イベント会場として使用されている。



ar©tur

4. 特産品 ~ワインとフレッシュなオリーブオイル~

(1) 白ワイン

●Rebula

ブルダで生産されるワインの品種のうち全体の25%を占める。原産はギリシャだが、スロベニアでも750年前から製造の歴史がある。



©Mercator 2015

●Pikolit

ゴリシュカ地方の他フリウーリ地方(イタリア)やハンガリーでも生産されている。甘口のデザートワインに加工されることが多い。



© 2015 Vinska klet "Goriška Brda" z.o.o.

●Jakot

スロベニアでは18世紀頃からこの品種の製造が始まった。以前は「Tocai」という名で流通していたが、EUの原産地保護法令の強化に伴い、ハンガリー産ワイン「Tokaji」と区別するため、2013年から「Jakot」の名が使



用されるようになった。

(2) オレンジワイン



©2015-16 Sloveniaforyou

●フリウーリ地方(イタリア)からブルダ地方にかけての地域で生産されている独自のワイン。赤ワインの造り方により、白ワインを製造しており、その際ぶどうの皮も利用され、その結果、独特のオレンジ色が加味されている。赤ワイン、白ワイン、ロゼに次ぐ第4のワインと呼ばれているが、味は好み次第。

5. ワインセラー

●Vinoteka Brda

住所: Grajska cesta 10, 5212 Dobrovo v Brdih

電話: +386 (0) 5 39 59 210

Email: info@vinotekabrda.si

HP: <http://www.vinotekabrda.si/en/index.php>

ドブロボ城内にあるワインセラー、約300種類のワインを取り扱っている。

●MOVIA

住所: Ceglo 18, 5212 Dobrovo v Brdih

電話: +386 (0) 5 395 95 10

Email: movia@siol.net

HP: <http://www.movia.si/en>

Ceglo(チェグロ)の本店の他、リュブリャナ市内(リュブリャナ市庁舎隣)にもワインバー兼販売の店舗を構える。